

Ⅶ. ボランティアセンターの概要

立教大学のボランティア活動は、「ボランティア」という言葉が社会に定着するはるか以前から行われており、キリスト教の精神にもとづく立教大学の教育理念を具現化するものとして、学内のさまざまな部署が学生支援のプログラムとして展開してきた。そうした精神を受け継ぎ当センターは、キリスト教の精神にもとづくヒューマン・ムーブメントの一環として、立教学院全体を網羅するネットワークの拠点として 2003 年 6 月に誕生して以来、立教らしいボランティアセンターの活動を追求している。

2016 年度から、立教サービ斯拉ーニング(RSL)センターが設立したが、その運営は立教ラーニングスタイルの意義に照らして、単に正課科目の運営に留まることなく、ボランティアセンターと相互連携を通じて、社会における体験的な学び(社会連携教育)を正課・正課外の両面から総長室社会連携教育課として一体的に推進できるよう積極的に関与していくこととする。

I. 基本方針

1. キリスト教の精神にもとづくヒューマン・ムーブメントの一環であることを活動の精神的な支柱として据える。大学をはじめ立教学院全体の運動として推進を計る。
2. ポール・ラッシュをはじめとした立教学院関係者のこれまでのボランティア活動の成果と精神に学びながら、その継承と新しい視点からの発展を模索する。
3. 学内、学院内、地域での活動グループ、外部団体などとのネットワーク構築を図り、相互協力のもとでの活動の展開を進める。
4. 活動の中心的な担い手として学生の活動、企画提言、発想などを尊重する。
5. 活動者が自己を点検しつつ日常を顧み、かつ明日への意欲を生み出せる場、未経験者が気軽に立ち寄り相談や助言を受けることのできる場、そのような場である「ホーム」となることをめざす。

II. 目標

1. 学生の関心、問題意識の喚起
はじめからボランティアに関心のある学生の数はそう多いものでもなく、それだからこそ、本学入学後にどのようなプログラムに出会い、ボランティアの意識にめざめるか、に焦点をあてて活動したい。日常われわれを取り巻く環境への意識、大学構内で出会う人への興味など、ほんの些細なことへの注意が見落としがちなものを見つめ直すきっかけとなること、行動すること、気づいたことを伝えていくことが、よりよい社会にしていく力になることを伝えていく。
2. 各種ボランティア講座、講演会、プログラムの充実
ボランティアって本当のところどういうものなの、というたくさんの「？」に応えるための講座を充実させている。国際化推進の動きに伴い、「海外ボランティア講座」相談会と報告会を開催し、学生が安心して海外でボランティアができる支援を行っている。特に、Gakuvo（日本財団ボランティアセンター）と協定書を締結したことにより、彼らのリソースを活用しながら、より一層の充実をはかりたい。また、実際にさまざまな活動をしている学生から直接話を聞く会（ボランティアカフェなど）にも取り組み、学生による学生のためのボランティア活動支援を始めている。将来的には、学生の人財データベース化をめざしていきたい。「誰でも楽しいを目指したバリアフリー映画上映会」は、学生がいろいろな力を出し合い、本当にバリアをなくすことがどういうことか考えながら創り上げ、一般社会に広める活動となっている。
3. 近隣（福祉関係）学校等との日常的プログラムの開拓
筑波大学附属桐が丘特別支援学校や同視覚特別支援学校などと協働してのいくつかの試みは、学生や

教職員にとっても身近にしょうがい者とふれることのできる貴重な機会となっている。池袋では、NPO 法人ゼファー池袋まちづくりや NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワークなどのプログラムに積極的に協力し関係性を密にしていく過程を通して、新規プログラムを開拓していくこととする。また、豊島区で学習支援や子どもの居場所づくり等の活動を行う団体のネットワーク（とこネット）の月に一度の定例会で、豊島区民社会福祉協議会をはじめ、約 20 団体と情報共有を行い、地域全体で子どもへの支援活動を行うことができるよう、キャンパスの拠点となる豊島区とのつながりを大切にしている。

新座では、学生サークル Bambino が新座キャンパス近隣の東野小学校の学童に通い、子どもたちと交流をしたり、パントマイムサークルのどりいむ・ぼくくすが新座市のお祭り等のイベントに参加して地域との関わりを継続している。また、先述の東野小学校のボランティア会議にコーディネーターが定期的に参加し、情報交換を行い地域コミュニティとの連携を深めている。

4. 学生活動支援

学生主体のボランティア活動やプログラム作成の協働、ボランティア・カフェなどを継続的に開催することにより、学生やボランティア学生団体をつなげることを進める。さらには、両キャンパスのボランティア学生団体の協力・連携を深めるためにボランティアサミットやプレサミットの開催にも注力する。

5. 国内キャンプの主催、プログラム開発

立教学院一貫連携教育としての清里環境ボランティアキャンプや山形県高島町での農業体験をはじめとして、新たなフィールド開拓にも意欲をもって取り組みたい。

6. 総長室社会連携教育課としての協力・連携の推進

ボランティアセンター、立教サービスラーニングセンターさらには復興支援・陸前高田サテライト、社会地域連携、セカンドステージ大学事務室も含めた事務組織である総長室社会連携教育課による一体的な推進体制を構築する。

7. コロナ禍におけるボランティア支援のあり方の模索と挑戦

コロナ感染の拡大により、ボランティアセンター主催行事である「清里環境ボランティアキャンプ」や「農業体験 in 山形県高島町」のプログラムが中止となった。通常のボランティア活動も停止となったため、ボランティアをしたいと考える学生はもとより、学生ボランティアサークルも日常の活動や合宿ができず、活動の存続に苦慮している状態である。

ボランティアセンターとしては、新入生を中心としたオンラインボラカフェを実施したり、学生ボランティアサークルの相談にのったり、オンラインボランティアサミットを開催して、ボランティアセンターが学生をつなぐ役割を積極的に果たしていく。また、バリアフリー映画上映会についても、オンライン上映会に伴い、新しいバリアフリー映画上映会のあり方を求めてチャレンジしていく。2022 年度は、コロナ禍におけるボランティア支援のあり方にさらに積極的に取り組む。